平成２７年度　安来市総合教育会議　議事録

１．日　時　　平成２７年１２月１５日（火）１５：００から

２．会　場　　安来中央交流センター　第5会議室

３．出席者

（構成員）　近藤宏樹市長、勝部慎哉教育長、赤名佐代子委員、岸田薫委員、少林浩道委員、

森井優委員

　（事務局）　清水総務部長、奈良井教育部長、武藤教育総務課長、難波学校教育課長、宮田総務課長、細田教育総務課総務係長、堀内総務課統計情報係長

　（司　会）　宮田総務課長

４．傍聴者　　なし

５．内　容

○宮田総務課長

定刻になりましたので第３回総合教育会議を開催いたします。皆様にはお忙しい中、総合教育会議にご出席いただきまして有難うございます。また、本日は、次期教育委員の加藤様にも傍聴人という立場でご参加を頂いていますのでご紹介させていただきます。

それでは、近藤市長にご挨拶を頂いた後、議長として会議の進行をお願いいたします。

○議長あいさつ（市長）

只今より第３回安来市総合教育会議をはじめさせていただきます。

これまで２回の会議を開催し、貴重なご意見をいただいております。本日は今までのご意見を盛り込んだもので策定前の大綱素案として協議をお願いしたいと思いますので各委員さんの忌憚の無いご意見をお聞かせ下さい。

それでは、早速ですが、協議事項に入りたいと思いますのでよろしくお願いします。

まず、第１の安来市教育大綱（案）につきまして説明をお願いします。

○宮田総務課長

　（資料の確認）

　私からは、大綱の構成について説明いたします。

まず、安来市教育大綱（案）資料の１をご覧ください。大綱は表紙を除き５Ｐとしています。表紙をめくっていただきまして、１Ｐをご覧ください。

大綱の構成として、前段で、「大綱策定の背景と趣旨」「大綱の実施期間」「大綱の位置付け」の３点を盛り込んでおります。

まず、大綱策定の背景と趣旨でございますけれど、平成27年4月の法改正により、新教育委員会制度が導入され、総合教育会議で、安来市教育大綱を策定し、効果的な教育行政を推進するとしています。次の実施期間ですが、今議会で議決予定の第２次安来市総合計画の前期基本計画が、平成28年度からの31年度までの4年間としていることから、大綱の期間も4年間としています。この期間内においての見直しも可能としています。続きまして、位置付けですが、安来市総合計画に基づき、大綱の基本理念と基本目標、また、重点的に取り組むべき施策を示した大綱を定め、教育行政を推進していくこととしています。右側の図では、安来市教育大綱を具体的に進めるための「安来市の学校教育」を合わせて追記しています。（他市では、教育振興基本計画などがこの位置にきます。）

その次、２Ｐからは、基本理念、基本目標など５Pまでの構成としています。その具体的な内容については前回からの修正を含め、教育総務課より説明いたします。

○武藤教育総務課長

　○基本理念

　Ａ４横版の対照表を使って説明します。

　はじめに基本理念です。１行目はじめの「ふるさと」のあと「安来」及び「愛し」のあとの「絆を大切に」を削除しました。これは、「絆」という言葉の使用はどうか、また、「安来」という言葉が多用してあると言うご意見からの修正です。

　３行目に「社会に貢献する」を入れております。これは、全世界・日本に通用する｢人材｣人づくりをというご意見をいただいておりますので「社会全体に貢献できるような人」という考えを込めております。

次に説明文の文章も同じように、「安来」という言葉の多用部分を削除し、また表現を変えております。

１１行目の中ほど「学びを支える体制を整え」のあとからの文面が、「安来」「ふるさと安来」を多用しておりましたので、「知育・徳育・体育の大きな柱を中心に、安来の歴史・文化を学ぶふるさと教育を推進し、安来を愛し、人や自然を大切にする心豊かな人づくり、そして、安来の未来をたくましくきり拓くとともに、新時代・新世界へ飛躍し、広く社会に貢献できる人づくりを目指します。」に改めております。ここで、「新時代・新世界へ飛躍」という言葉を入れました。これは、「新しい未来、世界に羽ばたくような言葉が必要ではないか」というご意見を基にその気持ちを込めております。

次の行の「人づくりは、まちづくりの原点」を削除しております。そのあとの「教育に携わる」のあとの「人々」を「人はもとより市民」と修正し、次の行「安来市」のあとを「教育の推進に積極的に」と分かりやすい文面に改めております。

以上が基本理念のページの改めた点です。

○基本目標

　同じＡ４横版の対照表の次のページです。

　基本目標１つ目

　２行目　確かな学力を備えのあと　以前の「夢や希望を未来につなぐ」を「新時代に羽ばたく」に改めました。これは、先ほども説明しましたが、「新しい未来、世界に羽ばたくような言葉が必要ではないか」というご意見を基にしております。

３行目はじめのところから「確かな学力とは、基礎的・基本的な「知識や技能」に加え、」を削除し、「国際感覚を養い」という言葉を入れました。これは、「基礎的・基本的なということは大切なことだが、限定されるように思う。もう少し幅広く考えたい」というご意見により修正したものです。

基本目標２つ目

２行目　豊かな心でのあと　以前の「絆をつむぎ幸せに生きる」を「支え合い助け合い　ともに生きる」に改めました。これは、「地域への参加」「こどもが積極的に地域へ出て行くように」というご意見から、地域の中で支え合い、助け合い、地域とともに成長するという気持ちを込めております。

３行目「豊かな心は、」のあと「他人を思いやる」を「人を思いやる」に改めました。次の行「生命を」のあと「尊重する心」を「大切にする心」に改めました。これは「尊重」が重複するためです。また次の行、「感性や道徳心、」のあと「人権を尊重する感覚や態度を育て、自らを律しつつ他人とともに協調することにより地域社会で」を「人権感覚や態度を育て、自他を尊重し、地域社会で」と文章を簡潔にするように改めました。

次のページの基本目標３つ目

１行目の基本目標を、以前の「心身の健康を大切にした教育の推進」から「健康な心身を育てる教育の推進」に改めました。これは、基本目標①・②の「育てる教育」という言葉の整合性を持たせるためです。

２行目を「心身の健康を大切にし 輝ける」から「健康な心身を鍛え 希望ある」に改めました。これは、基本目標を「育てる」とし、健康な心身を、よりしっかりしたものにするという思いを込めています。

５行目に、災害時、自らの生命を守ることができる資質・能力を育てることも大切であるため、「有事の際の自らの生命を守るための安全教育を通したくましい体を育みます」を加えています。

以上が基本目標のページの改めた点です。

○基本目標を支えるベース

同じＡ４横版の対照表の次のページです。

はじめに基本目標を支えるベースの２つ目の「ふるさとの豊かな自然、ひと、もの、ことを通した教育の推進」の中の一番下【重点】一番後ろに「社会教育活動の充実」をあげさせてもらいました。これは、「社会的教育ということも踏まえて欲しい」という意見から具体的に重点として加えました。

また、１つ目の「新しい時代に対応する夢ある学び環境の充実」の【重点】に「学校施設リフレッシュ事業」、３つ目の「すべてのこどもの学びを支える組織体制の推進」の【重点】に「放課後児童クラブ」をそれぞれ具体的な事業として加えさせていただきました。

○議長

説明が終わりました。

何かご意見等ありましたらお願いします。

○少林委員

　前回の素案から大分変わり、世界への広がりを感じる文章構成になっていて、非常に希望がある大綱に相応しい書き方になっていると思いました。その中で、言葉についてですけれど、キーワードとして新時代・新世界という言葉が出たということで非常の広がりがある言葉で、ニュアンス的には分かるんですけれど、どういうものを見据えているかということが、何か指摘があった時に、例えばこういうことを具体的には考えていますと言えればいいと思います。あまり限定するとそれだけなのかと言われると、また、難しいところですが、少しそういうものも作っておく必要があるのではないかと思う言葉ではないかと思います。3ページの下のところの基本目標③の一番下の行に有事という言葉が出ておりますけれど、有事という言葉のニュアンスとしてですが、昔から使われてはいるんですが、それは何かあった時ということで、解釈それでよろしければ結構ですけれど、そのあたり如何でしょう。

○教育長

　この言葉に含まれるのは、国際化とか情報化ということの対応できるという意味合いであろうかと思います。

○少林委員

　新時代というのはどうでしょうか。新世界も同じ。

○赤名委員

　新時代、新世界、かえって「新しい時代」「新しい世界」の方が分かりやすい。同じ意味だと思うんですけれど、言葉的に新時代、新世界より新しい時代、新しい世界の方が一般市民に分かりやすく、夢が膨らむように思っております。

○森井委員

　有事という言葉はドキッとする。３基本目標の③のところですが、「健康な心身を鍛え」とありますが、少し硬いような気がします。まず、健康な心身を作ることからはじめ、それから鍛える。

○赤名委員

　「健康な心身」というと、何か全て世の中に健康な人、というように想像するんですが。

○議長

　前に「健康な」を付けると健康な人ばかりになる。心身は教育と同じで鍛えなければいけない。「健康な」は取りますか。

○議長

　まず、一つずつ「有事の際の自らの生命を守るための安全教育」有事の際のみではないと思うけれど。

○教育長

　私も「有事の際」はなくてもいいと思います。自然災害を意識すればいいですけれど。子どもの世界にはいじめもありますから。

○議長

　整理します。まず、２ページの「新時代・新世界は飛躍し」を「新しい時代」「新しい世界」という意見がありましたが。

○清水総務部長

　新世界と新時代とがだぶったような感じがすれば新時代だけでもいいような感じもします。

　新時代と新しい時代がいいかということになると、私は新時代がいいと思います。

○少林委員

新世界より新時代がいい気がします。

○議長

　はい、新時代に決めましょう。

　３ページの「有事」は「有事の際の」は削除。

　３ページの基本目標③の「健康な心身を鍛え希望ある生涯を築く人づくり」の「健康」はどうでしょう。心身を鍛えるということで「健康な」を削除でどうでしょう。

(いいと思います。)

他に何かありませんか。

○少林委員

　基本目標の①のところの「確かな学力を備え」のところを、私も何処をどうして良いのか良い案はないですけれど、今日の説明で基礎的・基本的なということは大切なことだが、限定されるように思えるということでした。広い学力を持ったという趣旨だったと思いますけれど、これを読みますと「意力・思考力・判断力・表現力」確かに今足らないと言われていますけれど、ベースとしての基礎・基本をしっかり身に付けさせるということも「大綱」として有った方がバランス的にはいいのかなという気で読ませていただきました。そんな中で、新聞報道などで書かれておりますけれど、あまりにも基礎基本の全員の達成がまず第１なのだという取り組み方で、やや上位層が伸びていないということも今指摘をされているところですので、そうした何か基礎基本を大事にしながら発展的な学習も進めていくようなニュアンスの入ったような文面になるといいかなと思います。

学力はこれでいいと思いますが、説明の文章など。

○市長

　何か良くなるものがあると良い。都会はスポーツも何でもですが、学力もドンドン伸ばしている。そういう全体のレベルもですけれど、何か伸びるものがあるといいと思います。

○森井委員

　個人個人の力を最大限に伸ばす。個の力を全体ではいろいろ分野があるけれど。

○岸田委員

　一時、出来る人は、いじめに合うということがあった。伸ばす人間を伸ばす。底をあげる。これをどういう表現にしていいのか分からない。

　ゆとり教育というのは、平等と言いすぎたのではないかと思う。

○奈良井教育部長

基本目標①２ページですが、対照表の修正前の「確かな学力とは」をやめて、先ほどあった、基礎的基本的な「知識や技能」に加え、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現など」しっかり身につけの言葉につなげてはどうでしょうか。

○宮田総務課長

　底上げと個々の力をどんどん伸ばす。という意味の言葉を加えることでいいでしょうか。

○赤名委員

基本目標の①を変えて自分で課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に問題を解決する資質、改正前も改正後ものっていますけれど、これを向上させる教育、それを強く出せるような教育をしていただければいいかなと思います。

○議長

　他にはどうですか。

○少林委員

　基本目標の①の下の【重点】の所の文言に例えば、主体的な学習者の育成、基礎基本の発展的な学習、融合的に取り入れなど相応しいのか分かりませんけれど入れるのもいいのかなとおもいました。

○教育長

　短い言葉の中で全てを網羅しようと思うと難しくて、例えば、同じ学習をしていても基礎的な問題をした後にはジャンプ問題をする。いま言語活動と言われておりまして、物事暗記するのではなくて物事を説明できる活動、授業の仕方の中にドンドン入れていく。自分の言葉で説明する。学習の方法はかなり昔とは変わってきている。ですからこの短い言葉の中に網羅しようと思うと非常に難しくて、学力の向上には基礎基本ばかりではなくて、発展的なものも学習できるような授業形態を組んできているのは実際のところです。今、結果だけをみた時は、言いづらいところもありますけれども、

○議長

現場ではされていると思いますが、大綱の中にも前向きなことを入れておいたほうがいいと思います。

○教育長

　学習指導要領に基づいて学習内容が決められて、その内容を限られた時間の中で行う。子どもたちがなるべく向上して行くには、指導する側の教員指導力が上がらないと良くならない。

それが、指導力によって子どもたちがどれだけ上がるかじゃないかと思う。そう言ったところで学校の先生も試行錯誤しながら、教育者の方々と色々な考えを元に一生懸命取組んでいらっしゃる。安来市だけでなく、島根県も各県も同じと思います。朝の会とか終わりの会とかにグループになって役割当番を決めて行っています。係り活動・学習活動、授業の中では、今４人ぐらいのグループで、コの字になってやっています。昔は先生と生徒との授業だったのが、今は色々なかたちを試行錯誤してやっています。

○岸田委員

　結果的に良くなるのですか。

○教育長

　成績を調査していかなければならない。今年のこと、去年のことを比較してもことが違っている。どれぐらい伸びているかだと思います。

　ひところよりも、ＯＥＣＤの実施しているピサ（PISA）の試験をみてもかなり良くなっている。

　教育環境など色々合わさって伸びたり、伸びなやんだりしている。これからも検討していかなければならない。

○議長

　他に何かありませんか。

　事務局何かありませんか。

○総務課長

　今日の修正の部分については、事前にお配りして、ご意見をいただいて、第４回としたいと思います。

○議長

他に何かありませんか。無かったらこの「安来市教育大綱」案については、終了したいと思います。

次に、協議事項（２）意見交換にうつります。

以下意見交換

○ふるさと安来を知り自信を持たせたい。

　　　（安来節、やすぎハガネ、たけのこなど）

○わが町を愛して欲しい。

○安来の歴史・産業・工業などふるさと教育について

○教育力向上について

○幼小中一貫教育について

○安来の高校（２校）について

○現場の先生の資質の向上について

○指導の仕方について

○先生・生徒共に色々な体験をして欲しい。

○地元を知ってから地元を愛して欲しい（赤名委員）

○議長

それでは、以上で第３回目の総合教育会議を閉会といたします。

貴重なご協議ありがとうございました。

次回（第４回）は、２月に大綱の決定をして行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。